

# 皇紀二千六百年と

## 神宮御幸道路沿革に就て

古 郡 哲 爾

皇紀二千六百年 今上天皇陛下並 滿洲國皇帝陛下には  
親しく 神宮に御行幸遊ばされ給ふ 茲に謹みて其の神宮  
御幸道路沿革等に就て紹介せんとするものである。

### 一、神 宮

謹みて案ずるに吾 皇祖天照大神が 伊弉諾尊の仰のま  
にまに高天原を知らしめし八百萬の神々を統御遊ばせし  
が 御祖の伊弉諾尊、伊弉爾尊を御生みなされし大八洲國  
を見そなはし、此の五穀豊かに實る國は吾子孫の統へ治む  
べき國なりと仰せられ、天孫 彥火瓊々杵尊を此の國に降  
し「葦原千五百秋之瑞穗國是吾子孫可王之地也、宜爾皇孫

就而治焉行矣、實祚隆當與天壤無窮者矣」と神勅す。

其の御降臨に際し大神親ら八坂瓊の勾玉、八咫の鏡、叢  
雲の劍を授け 特に御鏡に就き「此之鏡者專爲我御魂而如  
拜吾前伊都岐奉」と宣へり、かるが故に天孫、大命を拜し  
御降臨遊ばされしより代々御鏡をば 天照大神の御神體と  
して奉仕し常に御同殿に御安置奉齋せられしものなり。

然るに人皇第十代崇神天皇六年に至り、大神と御同殿と  
なすは畏多き事に思召し、別に御鏡と御劍とを模造せしめ  
て御同殿に奉仕し、神鏡と神劍とをば皇女 豐鍬入姫命に  
託し、邊近き倭の笠籠邑と云ふに神籬を立て、奉祭せら

る。之れ皇居を離れ神宮を設けたる初めとす。

かくて 豐鍬入姫命は 天皇の仰を蒙り 大神に奉仕せられしが、尙ほとこしへに鎮座のよき場所を覓めんと思召し、まづ丹波國吉佐宮と云ふに遷し參らせ、次に倭國伊豆加志の本宮、紀伊國奈久佐の濱宮、吉備國名方濱宮、倭國彌加御室巖上宮等に遷されしが、豐鍬入姫命既にいたく御年を召され給ひしかば 垂仁天皇第二皇女 倭姫命代り遊ばして 大神を奉戴し近江國より東して美濃國を御廻りの後、伊勢國に御着きになりし時、大神の御告として「此の神風の伊勢國は則ち常世の浪、重浪の歸する國、倭國の可恰國なり、此の國に居うまく欲す」と仰せらる、桑名野代宮、安濃藤方宮、飯高宮、河曲小山宮、鈴鹿忍山宮、伊蘇宮、瀧原宮、志摩國等に御廻りになりしが、渡會川を船にて御下りになり度會郡の今の佐八村邊に至りし時、伊勢國造の支族、大若子命御迎に出で「佐古久志呂宇遲の五十鈴の川上に好き宮所あり」と言上せしかば、倭姫命大いに御悦び遊ばされ伊勢の海を廻り五十鈴川を溯りて、家田田上

宮と云ふに御上り遊ばされし所、猿田彥命の後裔なる大田命に參り會ひ、是亦五十鈴川の川上に好き大宮地の有る由を申し御案内申上ぐ 命は「朝日の來向ふ國、夕日の來向ふ國、浪音の聞えざる國、風音の聞えざる國、弓矢軋えざる國とて、大御意の鎮り座す國ぞ」と御悦び遊され、此處を大宮と定めらる、是れ 垂仁天皇二十六年九月なり。

神宮は 天照大神の外 豐受大神をも併せての稱にし、古より 天照大神宮を、皇大神宮、伊須受能宮（又は五十鈴宮）内宮と申し、神路山の麓を流るゝ五十鈴川の右岸にあり、豐受大神宮は、豐受宮、度會宮、外宮などとも申し高倉山の麓に鎮座まします、併せて兩宮、宗廟、大廟とも稱せらる。

豐受大神は、伊弉諾尊、伊弉爾命の御子と申すの説と、御孫に當らせ給ふの二傳あるも神代の昔に於て、陸田種子、水田種子及蠶業の業を創めて我が國が農業を國民生活の本位とする道を教へられし 大神なる事は、何れの傳にも明らかに記さるゝ、皇大神の深く之を徳と思召し、天孫降臨

の砌、皇大神の御鏡に副へて、此の大神の御魂をも授け給へり、然るに神皇殿を別ちて遷座せられし間に、此の御神

體のみは丹波國

比治の真奈井原

に鎮座あらせら

る、雄略天皇の

御時、皇大神の

宣托「我が御饌

の神、豊受大神

を吾が許に呼寄

せられたし」に

倚り 天皇は直

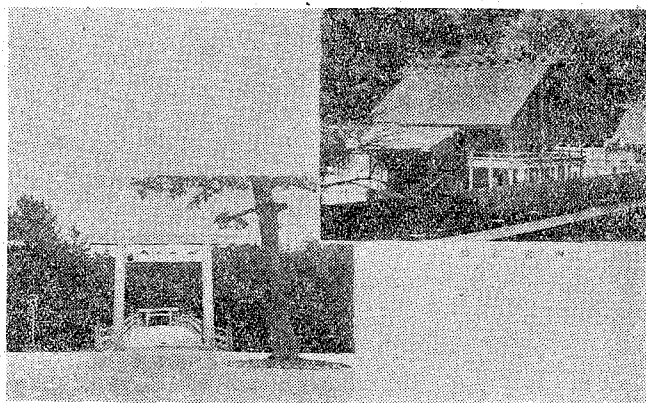
ちに丹波國より

豊受大神を迎へ

奉り、此の地度

會の山田原に大

宮所を定められ、



宮 内

尙大宮の内、長<sup>うしろ</sup>の隅に御饌殿<sup>みけ</sup>を建て、皇

大神宮の朝の大饌、夕の大饌を日別に供へ奉らしむ、之れを雄略天皇二十二年九月にして、皇大神宮の御鎮座に後る

、事四百八十一

年なり。(宇治山

田市史抄)

二、兩宮を繼ぐ

參道

宇治山田市は

昔山田原と稱し

たり、大神宮御

鎮座あらせられ

て、茲に起原を

なす、然るに兩

宮を繼ぐ道路と

しては 蓮臺寺

道、前山道、古

市道等あり、狹隘にして坂道急にして困難なる道路なるも、



宮 外

古市道は外宮より岡本町を通り、小田橋を渡り間の山、袖すり坂を登り地藏寺前より中村を通り川原田村に至り内宮に至りたり。延寶年中、此當卿は時の奉行桑山下野守に願ひ牛谷坂を開き地を平にしてより、古市道は此の牛谷坂を降り浦田町を経て内宮に至りたるものなり、其後文化年中古市の中の町寂昭寺の僧 月僊、千束屋の里登女の篤志により修理せられ參宮者の便を計りたり、其後屢々大改修をなし現時の古市道を形成せり。

### 三、御幸道又は御成街道

神宮御鎮座以來二千餘年、天皇として神宮に御親謁遊ばされしは、明治大帝を御嚆矢と承る、御行幸第一回は明治二年三月、御鹵簿にて外宮より現時古市道を御通過、内宮に御成遊ばさる、明治五年には白馬にて御行幸遊ばされしが、兩回共御幸道路としては狹隘なりし、第三回は明治三十八年十一月此の時は供奉員多數にて、恐れ多くも御鹵簿の端に觸るゝ程なりと誠に恐懼に耐へざる次第なり、依つて茲に御幸道路の必要を感じ、明治四十年に三ヶ年事業と

して縣營にて施工開始、同四十三年三月竣功す。

此の道路は外宮前、豊川町より始まり、岩淵町、岡本町の間を横切り前田に出で倉田山の東北を通り楠部の南方を経て浦田町、中の切町、今在家町に至り宇治橋に達す、延長五、三四八米、有效幅員一四・五四米にして歩車道の區別をなし、車道「マカダム」道にして、歩道は煉瓦舗装にして御木本幸吉氏寄贈の樹木を植へたり。當時は近代的道路を築造したるは我國の嚆矢と誇りたるものなり。

其の總工費三八七、四八六圓、内、宮内省補助三〇、〇〇〇圓、國庫補助一五二、〇〇〇圓、伊勢電鐵寄附二〇、〇〇〇圓、縣費一八五、四八六圓なり。

### 四、御幸道路（國道一號線）改良

御幸道路の完成により、參宮者には大に便利になり益々増加を見るに至れり、茲に二十餘年を経過せり、然るに近時交通機關の發達に伴ひ參宮者激増し、隨て自動車を利用するもの多く交通繁激し路面の損傷と砂塵甚しく之れが修理復舊に相當なる維持費を要する状態なるを以て、舗装道

の急務を認め、昭和八年時局匡救土木事業として、内務省直轄事業として開始す。

設計大要

路線名 國道一號線

事業區域 三重縣宇治山田市大字 自豊川町 至今在家町

施工延長 五、二六七米

總工費 一六五、〇〇〇圓

(一) 道路

延長 五、二三八米

幅員 一〇米(車道)

路面 横斷勾配二・五%双曲線

外宮前廣場延長六六米、面積九・七三平米「セメント」

混凝土鋪裝、延長二、六九五米、面積二〇、〇〇〇平米

「シートアスファルト」鋪裝、延長一、六八八米、面積

一四、六四〇平米粗粒式「アスファルト」混凝土鋪

裝、延長七三七米、面積四、八〇〇平米、細粒式「アス

ファルト」混凝土鋪裝、錦水橋及大洲橋前後取合延長

五二米、面積四八〇平米、細粒式「アスファルト」混凝土鋪裝、各支道取合個所「タール」乳劑塗裝。

街渠整理 八、一三〇米改造

軌道境界石 一、七七一米

鋪裝辻石 三四六米

雨水枳 一三三三個所改造又は新設

(二) 橋 梁

大洲橋

橋 型 單桁式鐵筋混凝土T型 一徑間

有效幅員 一五米內車道一〇米、歩道二・五米

橋 長 七・六米斜橋

橋 面 車道細粒式「アスファルト」混凝土歩道膠石鋪裝

桁下空間 一・三米

高 欄 鐵筋混凝土、表面洗出仕上

綿水橋

橋 型 單桁式鐵筋混凝土T型 二徑間

橋 型 單桁式鐵筋混凝土T型 二徑間

有效幅員 一五米内車道一〇米、歩道二・五米  
橋長 二一

六米斜橋  
橋面車道

細粒式

「アスフ

アルト」

混凝土歩

道膠石鋪

装

桁下空間

一米

高欄 鐵筋

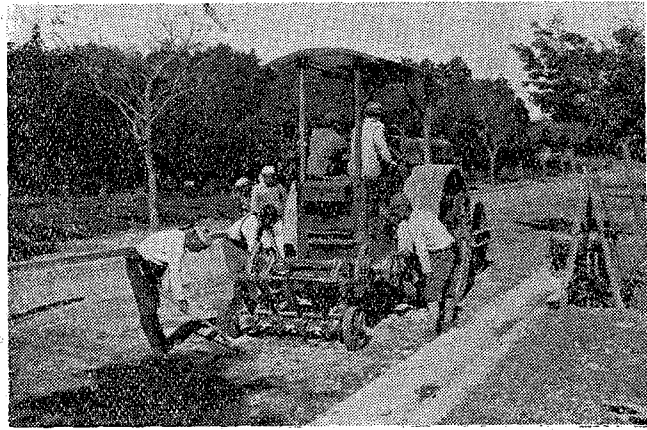
混凝土表

面磨出

五、施工概要

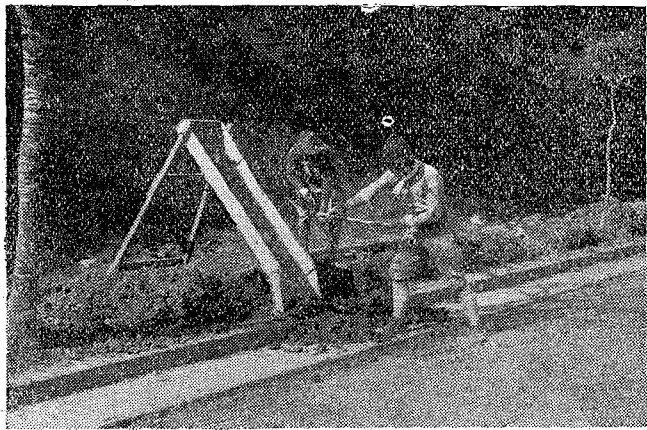
車道、アスファルト鋪装工事施行のみを掲ぐ。

資 料



業作取切床路にて—ヤイアフリカス

(一) 路 床



分 篩 砂 土 取 切

在來路盤

下、既設基礎  
栗石層迄切取  
り表面の固き  
所を「スカリ  
ファイヤー」  
にて掻取りた  
る後人力によ  
り掘鑿せり其  
の工量一二、  
六六〇立米、  
切取りたる土  
砂中、砂利混  
り部分を一二  
耗篩器により

選別し所定の高さに敷均し充分輾壓をなしたる後、車馬

の交通により自然輾壓を待ちたり、其工量五、一九〇立米

(二) 構造物

衝渠、既設縁石高を一五種にし、L型勾配急なるにより改造す、其の延長八、一三〇米

軌道境界石、電車軌道に境界石無き爲め之れを設置す

其の延長一、七七一米

舗装止石、舗装の起終點及支道取合部に止石を設置す

其の延長四三三米

雨水樋、舗装施工の爲め既設樋不適當なるにより改造

並に増設をせり。其の數二五九個所

路床單位當り成績

工種	名稱	數量	金額	摘要
切取	重油類	一〇〇 <sup>平米</sup> 三立	一一・三〇	輾壓機付「スカリフ アイヤール」運轉用、 モビールマシン、 グリーント油等

諸掛費 器械修理並毀損費	輾壓				殘土處理		盛工	
	勞力	雜品	油類	重油	石炭	揮發油	材料	雜品
一〇〇〇 <sup>平米</sup>	一〇〇〇 <sup>平米</sup>			二五 <sup>立</sup>	一〇〇 <sup>平米</sup>	一〇〇 <sup>平米</sup>	一〇〇〇 <sup>平米</sup>	〇・九一
一〇〇〇 <sup>平米</sup>				四立	一二 <sup>立</sup>	五・八四	六・九五	九・九五
三・八二	一・五八	一・四九	〇・一三	〇・四七	〇・二二	一・四〇	〇・二五	〇・九一
代	輾壓機修理並部分品	定工夫其他監督費	運轉手、並手傳共	襪襪、壓縮空氣、着紙類	同	自動車運轉用	篩金綱及木材類	遺方材、工具修理、コロックス、襪襪類、表面機械切取後人力掘鑿費
				モビール、マシン、グリーント油類	輾壓機燃料	積込卸處理共運轉手人夫	篩分、敷均共	
				〇・二二	二・七〇	〇・一六	六・六五	六・九〇
				〇・三九	四・二六	〇・〇二	六・四五	〇・九五
				〇・二二	二・七〇	〇・一六	五・八四	九・九五
				〇・四七	四・二六	〇・〇二	六・六五	〇・九一
				〇・一三	二・七〇	〇・一六	〇・二五	九・九五
				一・四九	二・七〇	〇・一六	〇・二五	〇・九五
				一・五八	二・七〇	〇・一六	〇・二五	〇・九五
				一〇〇〇 <sup>平米</sup>	一〇〇〇 <sup>平米</sup>	一二 <sup>立</sup>	一〇〇〇 <sup>平米</sup>	〇・九一

構造物單位當り成績

工種	名稱	數量	金額	摘要
街渠整理	セメントコンクリート一三四、配合手練	100.290 米	100.290 円	L型下水體用
	〃一三六、〃	〇.九六	10.300	基礎用
雜品	セメントモルタル	〇.九六	1.860	L型下水上塗用
	一二、配合手練	〇.九六	1.860	綠石目地用
勞力	〃一三、〃	1.33	1.860	竹箒、蕙類
	〃	1.86	1.860	石工、左官、手傳人夫、諸掛費
軌道境界	セメントコンクリート一三六、配合手練	100.160 米	100.160 円	基礎用
	〃	〇.四	7.620	目地用
雜品	〃	〇.七	1.300	境界石
	〃	1.300	2.550	石工、手傳人夫、諸掛費共
鋪裝止石	セメントコンクリート一三六、配合手練	100.245 米	100.245 円	栗石ヲ含ム基礎
	〃	1.300	2.550	諸掛費共

資 料

(三) 骨材採取

玉石試驗成績

試驗項目	規格	試料
磨損率	五・以下	一八・六
比重	二・五以上	二・六五
吸水率	二・以下	〇・〇九
硬度	八以上	一八・六七
靱性		一七・〇

五九

工種	名稱	數量	金額	摘要
雨水枋	セメントコンクリート一三六、配合手練	100.290 米	100.290 円	栗石ヲ含ム基礎
	〃	〇.九六	1.860	目地用
雜品	鐵製枋蓋	1.33 枚	1.860	取付工管共
	〃	1.86	1.860	升緣用
勞力	〃	1.86	1.860	石工、手傳人夫、諸掛費共
	〃	1.300	2.550	諸掛費共



締合力

一〇以上

三・〇

磨損係數

二一・五

玉石、

度會郡宮

川筋にて

安山岩、

玄武岩質

のものを

選み採取

なし、小

舟にて宇

治山田市

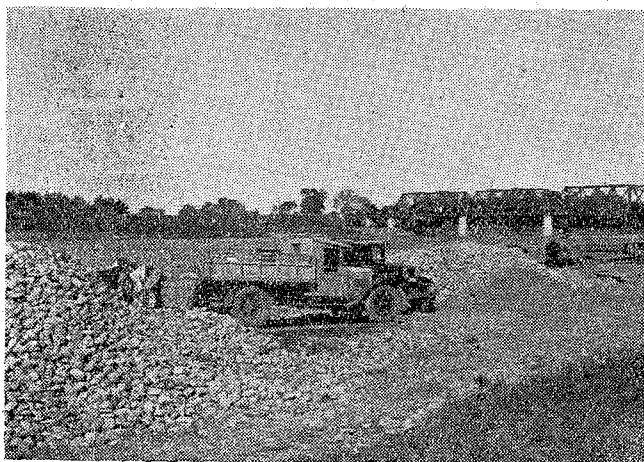
大字辻久

留町地内

宮川岸に

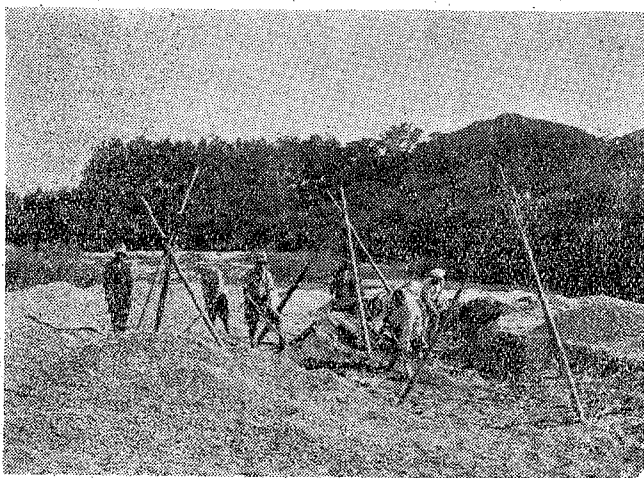
卸し、其

より自動車にて現場迄運搬す。其の量二、〇七〇立米



(筋川宮) 場 電 取 卸 及 石 玉

砂利、宮川筋にて採取なし、自動車にて現場迄運搬す  
其の量二、二〇立米



(色一今宇大町見二) 場 取 採 砂

て四郷村大字一軒茶屋地内勢田川岸に陸上げす、現場迄

砂、粗

砂は宮川

筋にて採

取なし自

動車にて

現場迄運

搬す。

細砂は

度會郡二

見町大字

今一色海

岸附近よ

り採取な

し、舟に

馬車にて運搬す。其の量一、九四〇立米  
 砂篩分試験

篩別	宮川(重量%)	今一色(重量%)
一〇番篩通過	一〇〇・〇	一〇〇・〇
一〇番篩通過四〇番篩止り	八五・五	三・六
四〇番	一三・一	五一・〇
八〇番	一・四	四五・五
計	一〇〇・〇	一〇〇・〇

骨材採取單位當り成績

工種名	稱	數量	金額	摘要
玉石採取	二〇—一〇 糲級	一〇〇〇立米	二八〇・〇〇円	人力採取
運搬	揮發油	二六〇立	二九・〇〇	自動車燃料
雜品類	力		五・二〇	〃
勞力			〇・八〇	〃
勞力			一〇七・〇〇	運轉手船夫並積込卸人夫共

資 料

諸掛費	採取	砂利	諸掛費	採取	砂利	諸掛費	器機修理並毀損費
勞力	一〇番以下	一〇〇立米	勞力	三〇糲級	一〇〇立米	勞力	六〇・〇〇
勞力	材料		雜品類	揮發油		勞力	二二・〇〇
一四〇・〇〇	二一・〇〇	二一・〇〇	力	類		〇・二四	二〇・〇〇
四・〇〇	四五・〇〇	四五・〇〇	〇・二四	油	二二一	〇・二四	六〇・〇〇
	二一・〇〇	二一・〇〇	六七・〇〇	類		〇・二四	六〇・〇〇
	自動車運轉用	自動車燃料	五三・〇〇	力	二二一	〇・二四	六〇・〇〇
	船夫、馬車賃	〃	六七・〇〇	力	二二一	〇・二四	六〇・〇〇
		〃	五三・〇〇	力	二二一	〇・二四	六〇・〇〇
		運轉手船夫並積込卸人夫共	五三・〇〇	力	二二一	〇・二四	六〇・〇〇

(四) 碎石製作

宮川筋にて採取したる玉石を三〇糲以下に碎石し篩に

より三〇糎——一五糎以下の二種に選別す。其の量一、九三三立米

碎石機

製造所 大塚工場

型式 嚙合式 一五馬力

投入口 長三八糎中二三糎

廻轉數 毎分二五〇回

碎石量 毎時四、〇〇〇糎(三立方米)

選別機

製造所 齋藤鐵工所、組立直營

型式 廻轉篩 二段掛ケ 三馬力

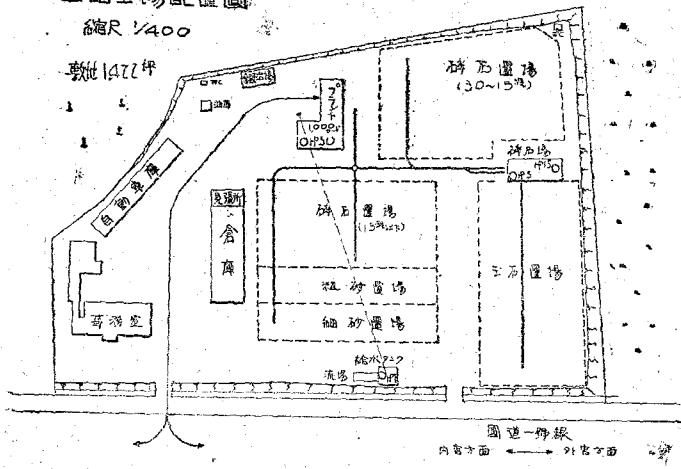
篩の太さ 投入口徑五〇糎、吐口徑八四糎、長二・一五米

篩廻轉數 毎分二六回

「パマツト」昇降機毎分五〇米、「バケツト」長二〇糎、幅

一〇糎、深一〇糎三角型

山田工場配置圖  
總R 1400



岩瀬町字前田

碎石作業人員配置

×印は他と兼職する者なり

作業種別	運轉手	人夫	計
碎石機運轉並ニ油差	一人	人	一人
玉石搬搬		四	四
投入		二	二
選別機運轉並油差	×一	三	×一 一〇三
碎石運搬並處理	×一	九	×一 一〇三
計			

碎石單位當り成績

工程名稱	數量	金額	摘要
碎石	一〇〇 <small>立米</small>	五四五・〇〇	
碎石	一〇〇	三五三・〇〇	
下三〇耗以	一〇〇	二八〇・〇〇	採取品
玉石	一〇〇	二六・五〇	機械運轉用
電力	三三二 <small>キロワット時</small>	二・七五	マシン、グリウス油類
油類		二・七五	權樓ベルトワックス、
雜品		二・七五	電燈料共

資 料

(五) 鋪 裝

一、アスファルトプラント

能力、一、〇〇〇平方ヤード(八三六平米)五〇馬力骨

材乾燥方法、重油バーナー(壓縮空氣吹付)

乾燥器回轉數 每分一二回

運搬用バケツト 昇降機每分三六米

混合機、回轉數每分六五回

熔融方法、石炭加熱 輸送人力投入

選別	勞力	電	油	雜品	勞力	諸掛費	機械設備費	器械修理並毀損費
三〇一	四一・〇〇	五・一〇	一・九八	〇・一二	一二六・八〇	一二・五〇	四〇・五〇	九五・〇〇
五耗二種	四四・〇〇	キロワット時 六〇						
一	機械運轉用		機、ベルトワック	〃	齒板、	機械組立、据付及電力	工事、信地料費	齒板、額板、ドツグルブ
								レー、篩網並修理費共

二、混合作業

骨材を回轉乾燥器により乾燥したる後回轉篩を通過せ

しめ貯藏

に送入しア

スファルト

は溶融槽に

て加熱溶融

す。各材料

を秤量した

る後、碎石、

砂、石粉及

アスファル

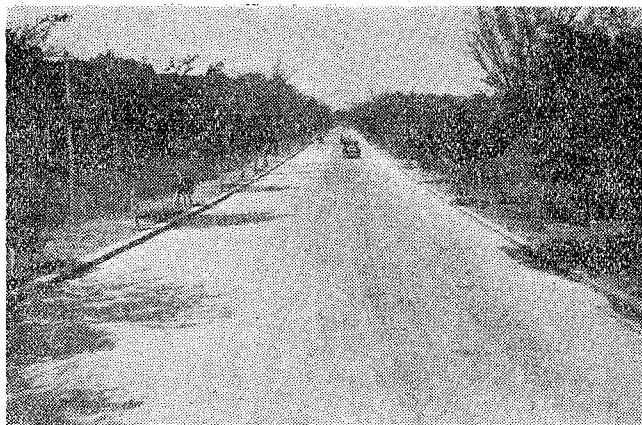
トの順に混

合機に投入

す。

混合時間

粗粒式及基礎用「アスファルト」 三〇秒



舗装後之御行幸道路

材料温度

アスファルト、骨材、一六〇度

細粒式及「シート」アスファルト 四〇秒

混合全量

一七、七

五三バツ

チ重量八

六八一觔

三、運搬作業

貨物自動

車は混合機

の下に停車

し混合材六

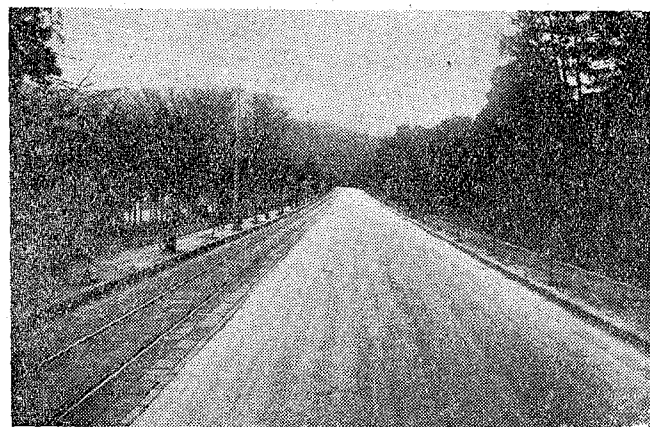
「バツチ」

(一、九〇〇

斤)混合し

たるものを

所定舗設個所に運搬す、然るに「ダンプボデー」車は一

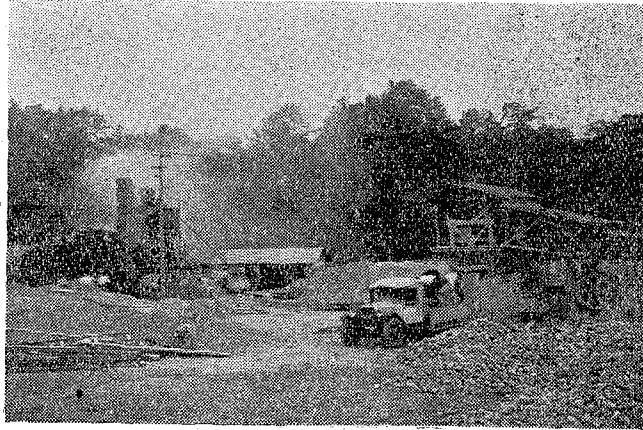


同軌道上並行納所

分間にて取却したるも、平「ボデー」車は一五分間を要したり其れが爲め「プラント」作業に不規則を生ずる虞あるを以つて適當に配車したり。

四、舗設作業

シートア  
スファル  
ト、厚六糎  
にして下層  
四・七糎の  
粗粒式アス  
ファルト混  
凝土、上層  
一・三糎シ  
ートアスフ  
アルトにして、

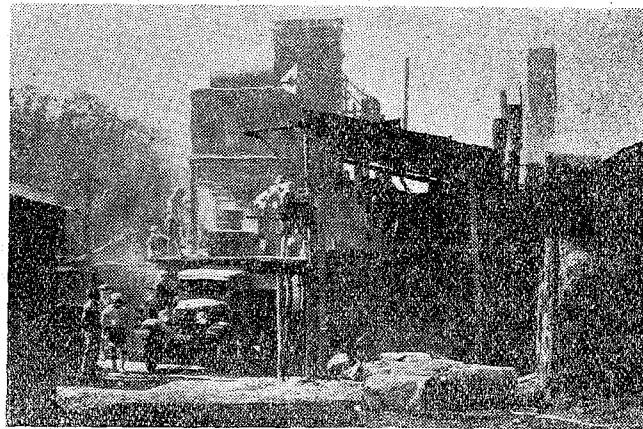


業作石碎並トシラフトルアスア

其の平均配合下層、碎石六三・九%、砂

二五%、石粉五・一%、アスファルト六%、上層、砂七一・八%、石粉一四・一%、アスファルト一四・一%とす、

其の面積二〇、一四七平米



業作合混トルアスア

粗粒式アス  
ファルト混凝  
土、厚六糎に  
して其の平均  
配合 碎石五  
〇%、砂三五・  
七%、石粉七・  
三%、アスフ  
アルト七%と  
し表面に厚五  
糎の封緘層と

して一〇〇平米に付、アスファルト四五%、コールタ

ル一五畝の割合に混合溶融せるものを全面一様に塗布し、乾燥せる砂〇・四立米を散布す、其の面積一四、五五四平米、細粗式アスファルト混凝土、厚七糎にして下層四糎の基礎用アスファルト混凝土、上層三糎細粗式アスファルト混凝土にして、其の平均配合、下層 碎石六七・六%、砂二七%、アスファルト五・四%、上層 碎石二二・五%、砂五八・九%、石粉八・九%、アスファルト九・七%とせり。其の面積四、八〇〇平米

混合物は「シヨベル」を以つて之れを鋪設個所に均等に敷均し塊状となる部分は「レーキ」を以つて碎き所定の縦横斷勾配に形成する様撥均したる後八廳「タンデム」輾壓機にて三〇回以上輾壓をなし次に一〇廳マカダム輾壓機にて冷却する迄充分輾壓をなす。

鋪設作業人員配置

×印は他と兼職する者なり

作業種別	運轉手	鋪設工	人夫	計
混合機 械 運轉	二人	一人	一人	二人

骨材計量	骨材投入	骨材檢温	石粉計量並運搬	發送檢温	碎石運搬	砂	油	アスファルト投入	火夫(晝夜作業)	空罐空俵整理	雜役	鋪設レーキ操役	ダンプ	スムザ	工具加熱
×												×			
一	二	三	一	一	六	四	一	三	三	一	一	二	一	一	一
二	三	四	五	一	六	四	一	三	三	一	一	二	四	二	一
一	二	三	五	一	六	四	一	三	三	一	一	二	四	二	一

鋪裝單位當り成績

工種名稱	數量	金額	摘	要
シフトアスファルト	100 平米	41.00		
混合	100 立米	106.40		
碎石	47.7 立米	25.62	下層用	
砂	2.0 立米	4.10		
石粉	1.5 立米	3.55	上層用	
石	1.00 立米	7.30		

碾壓機運轉	二			
撒水				
混合物運搬				
ハンドローラー				
路盤掃除及雜役				
仕上後手直シ				
跡始末				
合計	× 一四二	× 四二	× 四四四	× 四一八
			× 四二	× 一八
			× 二	× 八
			× 四	× 二
			× 二	× 一
			× 二	× 二
			× 二	× 二
			× 二	× 二

資 料

鋪 設		搬 運	
木炭	0.78	工具加熱用	
油類	0.6		
揮發油	1.6		
石炭	0.5	碾壓機運轉用	
勞力	1.0	運轉手及助手費	
雜品	0.1		
油類	0.4		
揮發油	1.5	自動車運轉用	
勞力	1.0	平均運搬距離一籽	
雜品	0.3		
油類	0.6		
重油	2.6	骨材乾燥用	
石炭	1.7	アスファルト溶融用	
電力	2.8	原動機用	
ルト	3.3	針入度上層七〇—八〇度	
アスファ	3.3	針入度下層四〇—五〇度	

六七



諸掛費	器具機械賃借並設備	器械修理毀損費	粗粒式アスファルト	混合	碎石	砂	石粉	アスファルト	砂	アスファルト	コイル	電力	石炭	重油	油類
雑品	雑品	雑品	100 平米		立米	立米	立米	立米	立米	立米	立米	立米	立米	立米	立米
0.01	10.00	0.75	100.00	107.00	26.6	8.9	7.8	37.6	0.8	1.8	0.7	1.6	1.8	2.0	0.7
	舗設並混合材料運搬其他一式	プラント、輾壓機、鋪設工具等並設備費共			針入度四〇―五〇度	封絨層用	針入度七〇―八〇度	プラント原動機用	アスファルト溶融用	骨材乾燥用					

諸掛費	器具機械賃借並設備	器械修理並毀損費	鋪設	運搬	雑品	雑品	油類	揮發油	石炭	揮發油	油類	雑品	雑品	雑品	雑品	雑品
1.10	1.10	1.10	0.9	1.5	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9
	鋪設並混合材料運搬其他一式	工具等並設備費共	輾壓機運轉用	運轉手及助手共	厚六・五種、内封絨層〇・五種	封絨層用	工具加熱用	針入度七〇―八〇度	針入度四〇―五〇度	揮發油	油類	雑品	雑品	雑品	雑品	雑品

資 料

混				搬				合			
碎石	砂	石粉	石炭	重油	雜油	雜力	勞力	揮發油	油類	雜品	勞力
100.15	4.3	1.1	2.0	3.0	6.3	2.3	6.0	2.0	4.0	3.0	1.0
2.3	4.0	6.0	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1
下層用三〇糎以下	上層用一五糎以下	下層用	上層用	針入度	針入度	針入度	針入度	針入度	針入度	針入度	針入度
四・四五	四・二〇	六・三〇	四・四〇	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八	四・八
混合	混合	混合	混合	混合	混合	混合	混合	混合	混合	混合	混合
立米	立米	立米	立米	立米	立米	立米	立米	立米	立米	立米	立米

鋪設	石炭	揮發油	油類	コークス	木炭	雜品	勞力	諸掛費	器具機械賃借並設備	器械修理並毀損費
100.20	2.5	1.7	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	1.0	1.5	1.0
下層基礎用アスフ	上層細粒式アスフ	輾壓機運轉用	工具加熱用	鋪設並混合材料運搬其他	鋪設並混合材料運搬其他	鋪設並混合材料運搬其他	鋪設並混合材料運搬其他	鋪設並混合材料運搬其他	鋪設並混合材料運搬其他	鋪設並混合材料運搬其他
1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

シートアスファルト鋪裝成績

昭和八年 一月二二日 天候 晴 気温平均 一八度

一月二五日 天候 晴 気温平均 一八度

国道一號線 三重縣宇治山田市

鋪裝種類 上層 シート、下層粗粒

プラント所在地 岩淵町

プラント作業時間 始業午前六時三〇分 終業午後四時三〇分

プラント作業正味時間 八時〇分

アスファルト混凝土配合(一バッチ當リ)平均

種別	混合用材		細骨材 填充材	瀝青 セメント	計
	粗骨材	重量			
粗粒混合 (下層用)	一四六	五九	八〇	一六	三〇〇
細粒混合 (上層用)	四五・五	一八・四	二五・〇	五・一	一〇〇・〇
平均	七二・八	一四・一	一〇三・〇	四・五	三三〇

貯藏函ノ混合材粒度試験(重量%) 平均

篩別	混合材		細骨材 填充材	全混合物	
	粗骨材	重量		粗粒	細粒
三〇耗止	一五・〇	七三			
三〇耗通過二〇耗止	四〇・〇	一九・四			
二〇 " 一五 "	二七・〇	一三・一			
一五 " 五 "	一八・〇	一七・四			
五 " 一〇番止	四五・〇	一〇・三			
一〇番通過四〇 "	五〇	二・四			
四〇 " 八〇 "	三三・〇	二九・〇			

貯藏函ノ細骨材八〇番篩通過量試験 平均

八〇 " 二〇〇 "	二〇〇 "	二〇〇 "	二〇〇 "	二〇〇 "	二〇〇 "	二〇〇 "	二〇〇 "	二〇〇 "	二〇〇 "
計	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

溫度 平均

試驗時間	重量%
三〇	三〇

製作量 プラント種類及能力 一、〇〇〇ヤード

種別	最高 C.	平均 C.	最低 C.	下層用	上層用
下層材	一八〇	一五〇	一四〇	四二	七六
上層材	一八〇	一五〇	一四〇		
アスファルト	一六〇				

プラントヨリ採取セル(アスファルト)針入度(平均(二五度一〇〇瓦五秒))

混合物種類	混合バッチ數	發送バッチ數
上層	七、〇九九	七、〇九九
下層	一、九三九	一、九三九

混合 物 運 搬 作 業

運搬臺數	運搬延臺數	運搬平均距離	運搬延距離
二	一、五一〇	一、〇 <sub>軒</sub>	六、〇四〇 <sub>軒</sub>

鋪設作業時間始業午前七時〇分終業午後五時〇分  
 鋪設作業正味時間一〇時〇分  
 作業能率 鋪裝延長二、七一四米測點 自二、七一四米

混合物種類	受領バッチ數	廢棄バッチ數	鋪設バッチ數	鋪裝面積
下層	七、〇九九	一	七、〇九八	二〇、一四七 <sub>平米</sub>
上層	一、九三九	三	一、九三六	二〇、一四七 <sub>平米</sub>

鋪裝厚六種 下層四、七種 上層一、三種  
 縱斷勾配  
 輾壓機種類八越ダンデム 一二越マガダム  
 一平米當り重量 下層一二越 上層三一越

記	事
鋪設作業日數 三〇日	
一日平均 六七〇平米施行	

資 料

粗粒式アスファルト鋪裝成績

昭和八年一月二九日 天候 晴 氣温 平均一二度  
 二月二二日

國道一號線 三重縣宇治山田市  
 鋪裝種類 上層封緘 下層粗粒  
 アラント所在地 岩淵町

アラント作業時間始業午前六時三〇分終業午後四時三〇分  
 アラント作業正味時間八時〇分  
 アスファルト混攪土配合(一バッチ當り)平均

種 別	混合用材		重量	%	種 別	重量	%	種 別	重量	%
	粗 骨 材	細骨材								
粗粒混合 (下層用)	一一三	四八	一五〇	三三・〇	細骨材填充材	二四	七・三	青	三	三・〇
細粒混合 (上層用)	一一三	四八	一五〇	三三・〇	セメント	七・三	一・七	計	一〇〇	一〇〇・〇

貯藏箇ノ混合材粒度試験(重量%)平均

篩 別	混合材		全混合物
	粗 骨 材	細骨材填充材	
三〇耗止	三〇—一五二	五・六	
	一五・〇		

貯藏函ノ細骨材八〇番篩通過量試験 平均

計	二〇〇〇	八〇〇	四〇〇	一〇〇	五〇	二〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三〇耗通過	二〇〇耗止	四〇〇	二七〇	四〇〇	四五〇	二〇〇	一五〇	一〇〇	一五〇	一〇〇	一五〇
二〇〇〇	一五〇〇	二八〇	四〇〇	五〇〇	二〇〇	一四〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一五〇〇	一〇〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
一〇〇〇	五〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
五〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

試験時間

重量%

三〇

種別

最高 C.

平均 C.

最低 C.

下層材 一八〇

上層材 一五〇

一四〇

下層用 四五

上層用

フランドットヨリ採取セル(ア  
スファルト)針入度(平均  
(二五度)一〇〇瓦(五秒)

アスファルト

一六〇

製作量 フラント種類及能力 一、〇〇〇ヤード

混合物種類

混合パッチ數

發送パッチ數

六、四四四

六、四四四

六、四四四

混合物運搬作業

運搬臺數

運搬延臺數

運搬平均距離

運搬延距離

四

一、〇七四

二、〇軒

一七、一八四軒

鋪設作業時間始業午前七時〇分終業午後五時〇分

鋪設作業正味時間一〇時〇分

作業能率 鋪裝延長一、六九一米測點 自二、七一四米至四、四〇五米

混合物種類

受領パッチ數

廢棄パッチ數

鋪設パッチ數

鋪裝面積

六、四四四

〇

六、四四六

一四、五五四

六、四四四

六、四四六

六、四四四

鋪裝厚六、五糎 下層六糎 上層〇、五糎

縦斷勾配

輾壓機種類八咫ダンデム 一二咫マガダム  
 一平米當り重量 下層一四二咫 上層 咫

記 事

鋪設作業日數 一九日  
 一日平均 七七〇平米施行  
 封緘層 一〇〇平方ニ付  
 アスファルト四五咫 コールタール一五咫  
 散布砂 〇、四耗

細粒式アスファルト鋪裝成績

昭和八年一月二三日 天候 晴 氣温平均 一〇度  
 國道一號線 三重縣宇治山田市  
 鋪裝種類 上層細粒 下層粗粒  
 プラント所在地 岩瀨町  
 プラント作業開始業午前六時三〇分終業午後四時三〇分  
 プラント作業正味時間八時〇分

資 料

アスファルト混凝土配合(一バツチ當り)平均

種別	混合用材		細骨材填充材	瀝青セメント	計
	組骨材	重量			
粗粒混合(下層用)	一六八	五・六	四八	六	一八
細粒混合(上層用)	二二〇	七・〇	一八・九	二八	三二
重量	一五〇	二七・〇	五八・九	八・九	九七
%	三三・五	一・九	六二・八	〇・九	一〇〇・〇

貯藏函ノ混合材粒度試験(重量%)平均

篩別	混合材		細骨材填充材	全混合物	
	粗骨材	重量		粗粒	細粒
三〇耗止	〇・八	三〇・一		〇・五	
三〇耗通過二〇耗止	五二・〇	二二・〇		二八・四	
二〇 " 一五 "	二二・〇	二〇・七		二一・七	
一五 " 五 "	六五・〇	三〇・〇		二二・八	
五 " 一〇番止	六五・〇	五〇・〇		九・八	
一〇番通過四〇 "	五〇	二八・五		八・九	
四〇 " 八〇 "	三七・八	三〇・〇		二〇・八	

計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
八〇〃二〇〃			二八七	一五〇	八一	一九三
二〇〃			八五	〇	八三	八三

貯藏函ノ細骨材八〇番篩通過量試験 平均

試験時間	三〇
重量%	三〇

溫度 平均

種別	最高	平均	最低
下層材	一八〇	一五〇	一四〇
上層材	一八〇	一五〇	一四〇
アスファルト	一六〇		

下層用	四五	四五
上層用	四五	四五

プラントヨリ採取セル(アスファルト)針入度(平均) (二五度) 一〇〇瓦 (五秒)

製作量 プラント種類及能力 一、〇〇〇ヤード

混合物種類	混合バッチ數	發送バッチ數
上層	一、〇五五	一、〇五五
下層	一、二一六	一、二一六

混合物運搬作業

運搬臺數	運搬延臺數	運搬平均距離	運搬延距離
五	三七九	三・八 <small>軒</small>	一四、四〇二 <small>軒</small>

鋪設作業時間 始業午前七時〇分 終業午後五時〇分  
 鋪設作業正味時間 一〇時〇分  
 作業能率 鋪裝延長七一五米 測點 自四、四〇五米 至五、一二〇米

混合物種類	受領バッチ數	棄バッチ數	鋪設バッチ數	鋪裝面積
上層	一、〇五五	〇	一、〇五五	四、八〇〇 <small>平米</small>
下層	一、二一六	〇	一、二一六	四、八〇〇 <small>平米</small>

鋪裝厚七種 下層四種 上層三種

縱斷勾配

輾壓機種類 八吨ダンデム 一二吨マガダム

一平米當り重量 下層八一〇砵 上層七〇〇砵

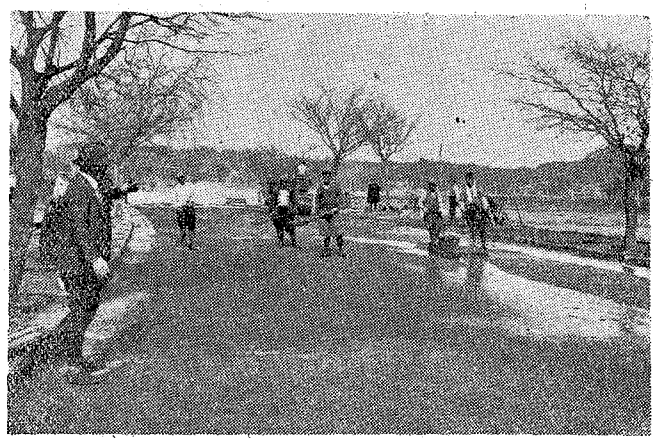
記	事
鋪設作業日數 五日	一日平均 九六〇平米施行

六、舗装の効果

舗装施行前は横断勾配五%乃至一〇%なりし爲め、諸車は中央のみ通行し、車道一〇米の効果をなさず、且つ交通事故多く牛馬車、自轉車等は危険にして交通支障を來したる状態なりしも舗装完成により車道全



舗装施行前は横断勾配五%乃至一〇%なりし爲め、諸



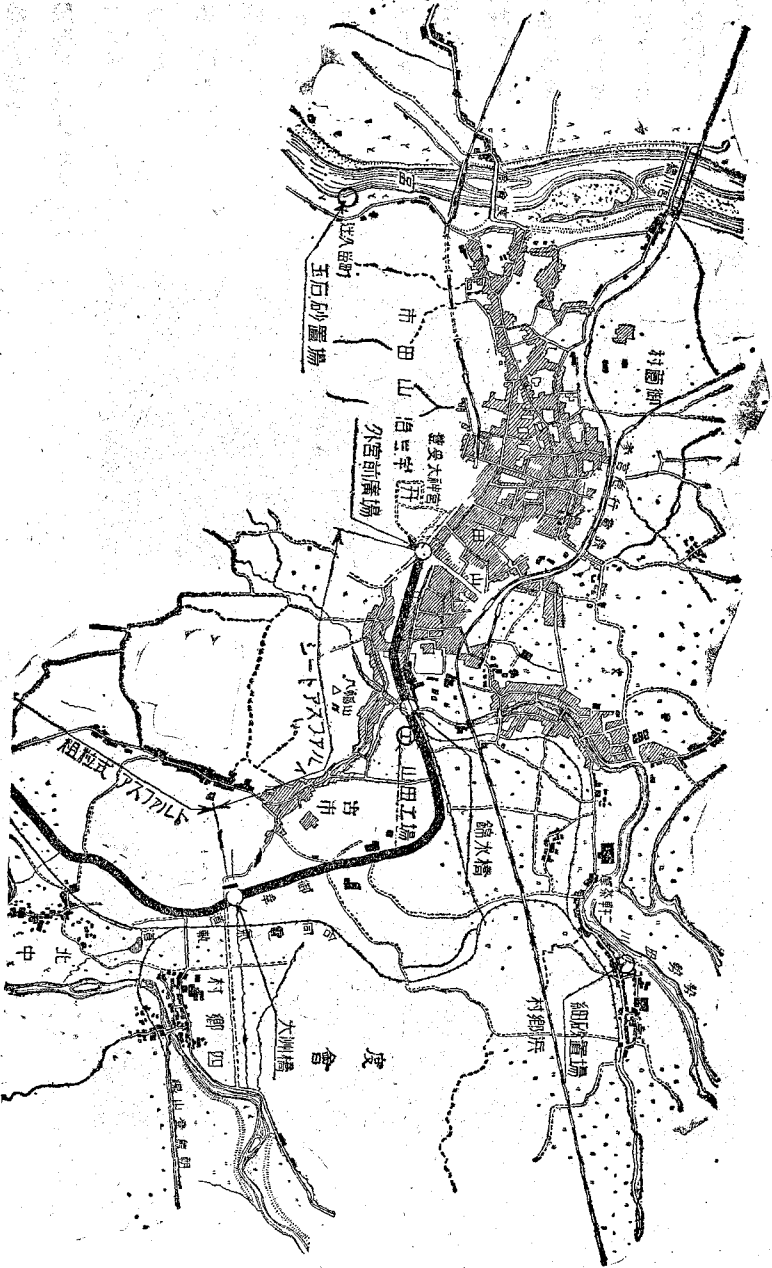
る様になりたり。

一五、七、二六稿

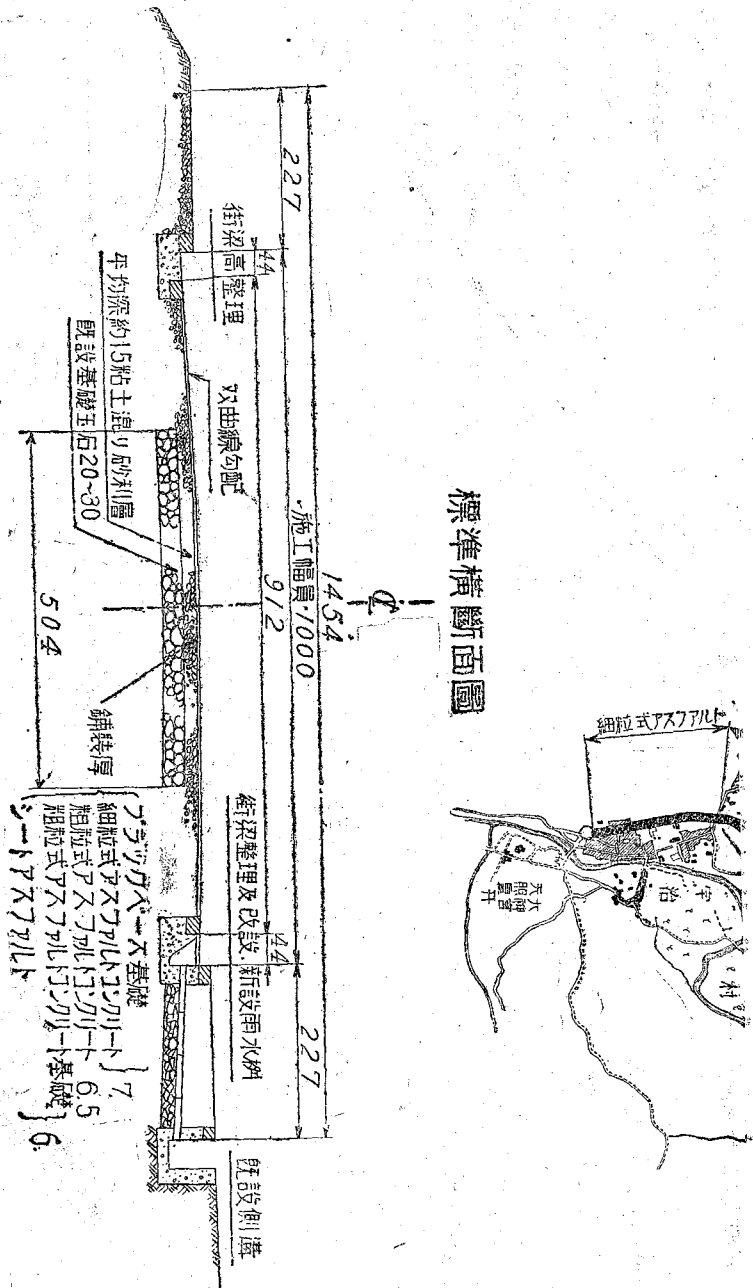
幅を利用し得る爲め自然疾行車、緩行車の區別し交通す

表 料





標準横断面圖



資料